（様式－3）

再 発 防 止 対 策 書

関東支部

発生日時	令和6年5月21日（火曜日）9 時 47分頃							天候	曇り	
災害の程度	死亡 － 名		負傷 1 名		職種：伐採作業員		年令68才		経験年数 16年	
工事の種類	調査測量	伐採	運搬	仮設	基礎	組立	足場	架線	撤去	その他
災害の種類	墜落・転落	転倒	物の飛来・落下	崩壊・倒壊	はさまれ・巻き込まれ	切れ・こすれ	感電	その他		
原因	作業準備の不良	作業方法の不良	工具防具の不良	電気工作物の不良	作業者の過失	共同作業者の過失	その他			
設備										
件名	伐採調査終了後，山間地歩行中に沢への転落負傷									

災害の状況	・保守業務実施責任者（作業班長兼務），被災者を含む作業員3名の合計4名で伐採調査を実施後，作業員3名で徒歩により車へ移動を開始した。
	・移動開始直後，被災者は沢を渡るための橋を発見し，橋を渡ると車へ戻る近道と考え，斜面を尻から滑り下りた際，中間付近で木の根に引っ掛かり体勢を崩して下の沢へ転落した。
	[被災程度]頸椎損傷，鼻骨骨折，顔面挫傷
	[装　　備]ヘルメット，作業服（上下），長靴，作業用手袋（ゴム製），ヤッケ（上下）
原因及び対策	1. 災害発生の主原因
	・被災者の斜面に対する安全意識が低かった。
	・「山地歩行に対する教育」を実施することについて明確に定義されておらず，再発防止対策（教育資料）が活用されていなかった。
	2. 再発防止対策
	・東京電力パワーグリッド作成の教育資料等を活用した「山地歩行に対する教育」を実施する。
	以　上

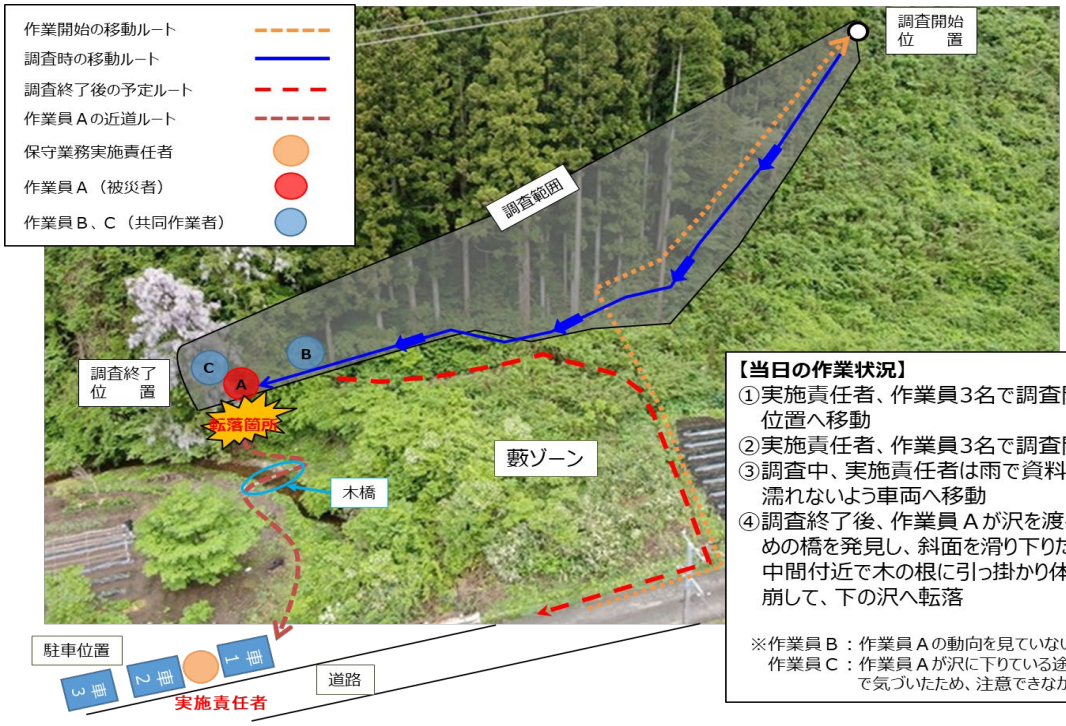
（注）1.　「人身災害報告要領」に基づいて記載するものとし、「工事の種類」「災害の種類」「原因」については該当項目に〇印を付ける。

2.　災害状況の説明と共になるべく図面を添付すること（様式－2）。特に感電の場合は支持物、電線の離隔距離その他寸法を記入する。

（様式－2）

再発防止対　　災害概要図

災害発生位置



【当日の作業状況】

①実施責任者、作業員3名で調査開始位置へ移動
②実施責任者、作業員3名で調査開始
③調査中、実施責任者は雨で資料が濡れないよう車両へ移動
④調査終了後、作業員Ａが沢を渡るための橋を発見し、斜面を滑り下りた際中間付近で木の根に引っ掛かり体勢を崩して、下の沢へ転落

※作業員Ｂ：作業員Ａの動向を見ていない。
作業員Ｃ：作業員Ａが沢に下りている途中で気づいたため、注意できなかった。

転落箇所　上部から撮影

車両駐車方向から撮影

災害発生状況

＜災害再現イメージ図＞

※作業員Ｃにヒアリングした被災者の転落イメージ

＜作業員Ａ（被災者）の思い＞

※本人へのヒアリング結果

- 斜面を下りた先の川を渡れば近道になると考え、衝動的に下りてしまった。（下りられそうな箇所があり、ただ下りただけ）
- 斜面を下りれば車両まで近く、何かに掴まれば大丈夫と判断した。（危険と感じなかった）
- 過去にも類似した斜面を下りた経験があり、問題なく通過できた。
- 移動ルートを戻ることに抵抗は無く、歩きにくいとも思わなかった。